

発達障害の支援サービス機能の簡易実用評価のマニュアル作成

研究分担者 小林 真理子 山梨英和大学 人間文化学部
研究協力者 中嶋 彩 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室
こころのサポートセンターネストやまなし
菊池 恵 山梨県教育委員会
有泉 風 こころのサポートセンターネストやまなし
研究代表者 本田 秀夫 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室

研究要旨

本研究は令和4～5年度厚生労働科学研究費補助金による「基礎自治体における就学前の発達障害児に対する地域支援体制の実態調査」を踏まえ、市町村母子保健における相談業務に従事している専門家・児童精神科医・教育関係者により、合議制質的研究方法等を用いて「発達障害の支援サービス機能の簡易実用評価（Quick and Practical Assessment of Support Service functions for individuals with Neurodevelopment disorders：Q-PASS）」を開発し、支援段階に応じて支援サービス機能の分析を行うためのマニュアルの作成を行った。

今回は Q-PASS は I～IV 段階であるが、現在、後継の研究にて V～VII 段階について研究中であり、令和6年度までには Q-PASS（I～VII 段階）が完成する予定である。

A 研究目的

発達障害は、早ければ乳児期、遅くとも小学校低学年までには、特有の発達特性が顕在化する。そのため、すべてのライフステージを通じて、なんらかの支援が必要となる。そのため、市区町村自治体（以下、自治体とする）において、さまざまなアプローチにより発達障害児およびその家族、そしてその関係者を支援していく必要がある。

本研究は以下の研究とその成果の経緯のもと、「発達障害の支援サービス機能の簡易

実用評価（Quick and Practical Assessment of Support Service functions for individuals with Neurodevelopment disorders：Q-PASS）」（以下 Q-PASS とする）を用いて、自治体の支援者や行政担当者が現状の支援サービス機能をチェックし、支援の質の確保に貢献できる支援サービス機能診断を行うためのマニュアルを作成することを目的とした。

なお、現在、Q-PASS は I～IV 段階までで作成済みである。それ以降の Q-PASS V

～Ⅶ段階については、令和5年度～こども家庭科学研究費補助金「地域特性に応じた発達障害児の就学から就労を見据えた多領域連携による支援体制整備に向けた研究」〈主任研究者：本田秀夫〉について継続して研究中であり、この研究の結果を経て、Q-PASS（Ⅰ～Ⅶ段階）が完成する予定である。

B 研究方法

1 Q-PASSの作成

市町村母子保健における相談業務に従事している専門家7名（公認心理師・臨床心理士 約25年以上 2名、公認心理師・臨床発達心理士 約15年以上 2名、公認心理師・臨床心理士 5年未満 3名）と児童精神科医1名の計8名により、オンライン・対面による研究会議を2023年6月～12月（計約50時間）を開催し、合議制質的研究方法により、アンケートの調査結果の考察と評価表の支援サービス機能の項目の選定を行い、Q-PASS（Ⅰ～Ⅳ段階）を作成した。

※アンケート調査結果の考察

令和4～5年度厚生労働科学研究費補助金による「基礎自治体における就学前の発達障害児に対する地域支援体制の実態調査」

① 法で定められている制度や福祉サービス（例：乳幼児健診、児童発達支援、保育所等訪問支援）のほか、柔軟な形態により計画的に実施されることとする地域生活支援事業（障害者総合支援法に基づく）や自治体単独による事業などを工夫して運営されていること

② 小規模なサイズの自治体においては、人材や予算の確保などの課題があり、事業

未実施のため支援サービス機能不足がみられること

2 Q-PASSのマニュアルの作成

P-PASS作成メンバーの他、学校教育関係者（特別支援教育・教育行政 約20年以上）を加え、計9名により、オンライン・対面による研究会議を2024年1月～3月（計約50時間）を開催し、マニュアルの構成案・執筆分担などについて検討した。

（倫理面の配慮）

本研究は、発達障害児の支援サービス機能を検討するための調査結果による評価表の作成とそのマニュアル作成であり、患者等の個人情報を扱うことは全くない。また、企業等との利益相反もない。

C 研究結果

1 Q-PASSの作成

別紙のように、Q-PASS part 1 Ⅰ～Ⅳ段階の気づきから診断までを作成した（表1）。

2 Q-PASSのマニュアルの作成

研究会議を行い、構成と分担を決めて、Ⅰ～Ⅳ段階までの part1 のマニュアルを作成した。

マニュアルの構成は表2に示す。

表2 マニュアルの構成

はじめに
I. Q-PASSの概要と使用の流れ
1. Q-PASSの概要
2. Q-PASSの使用の仕方
II. Q-PASSの作成
1. Q-PASSの作成について

2. 各段階ごとの作成方法
III Q-PASS についての用語解説
1. Q-PASS についての解説
2. 支援段階
3. 支援の種類
4. 支援機能

D 考察

Q-PASS を用いることで、自治体の行政担当者と地域で働く支援者が、現状の支援サービス機能をチェックすることができ、現状の不足している支援サービス機能を発見することができた。

令和 5 年までの研究において、Q-PASS は、発達障害児の発見前から直接支援の段階である I～IV 段階を作成した。令和 5 年度からの研究（前述）により、就学から就労・自立前までの段階を、就学、進学移行段階期を中心とした「V 就学・進学移行段階」「VI 学校生活段階」「VII 就労・自立準備段階」に設定し、作成中である。

以上、I～VII 段階を統合させて Q-PASS (I～VII) として完成させる予定である。

今後、就労・自立をした発達障害者に対しての Q-PASS も必要になることと思われる。しかしながら、インクルーシブの社会の実現に向けて進んでいる今、重層的支援体制整備事業では、市町村全体の支援機関・地域関係者が断らず受け止め、つながり続ける支援体制を構築することをコンセプトにして、「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の 3 つの支援を一体的に実施することを必須としている現状の中、成人期を迎えた発達障害者の支援のスタンダードを明確化し、評価表を作成していくことの難しさは、予想される。

E 結論

Q-PASS は、地域の支援体制の分析（地域診断）ができる Q-SACCS と共に用いることで、発達障害に関わる支援者が、自分の働く地域の支援体制を把握し、連携すべき他職種、支援段階における支援サービス機能を確認でき、発達障害児とその家族の支援の質の確保と向上が期待できる。

F 健康危険情報 該当なし

G 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

I 引用文献・参考文献

引用文献

・小林真理子・中嶋彩・槻館尚武他 2 名 児童福祉領域からみた発達障害児支援 I 発達障害児の支援施策の概観に基づく公的支援サービスの基礎データ作成 厚生労働科学研究費補助金障害者政策研究事業 地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備に向けた研究（研究代表者：本田秀夫）令和 4 年～5 年 2022

・小林真理子・中嶋彩・本田秀夫他 2 名 児童福祉領域からみた発達障害児支援 II 発達障害児のための支援サービス機能の分析 厚生労働科学研究費補助金障害者政策研究事業 地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備に向けた研究（研究代表者：本田秀夫）令和 4 年～5 年

2022

・小林真理子・本田秀夫・中嶋彩他 2 名 児童福祉領域からみた発達障害児支援 III 発達障害児のための支援サービスマップ作成の検討 厚生労働科学研究費補助金障害者政策研究事業 地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備に向けた研究 (研究代表者: 本田秀夫) 令和 4 年～5 年 2022

・小林真理子・中嶋彩・槻館尚武他 2 名 「基礎自治体における就学前の発達障害児に対する地域支援体制の実態調査」に基づく分析と考察 厚生労働科学研究費補助金障害者政策研究事業 地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備に向けた研究 (研究代表者: 本田秀夫) 令和 4 年～5 年 2023

・重層的支援体制整備事業について 厚生労働省 HP

<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/jigyuu/> (2024 年 4 月 4 日閲覧)

参考文献

・本田秀夫・篠山大明・樋端佑樹 発達障害等の支援体制を評価するための「地域評価ツール」の作成と試行 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業(身体・知的等障害分野): 発達障害児者等の地域特性に応じた支援ニーズとサービス利用の実態の把握と支援内容に関する研究-平成 28 年度総括・分担研究報告書 249～258 2017

・本田秀夫・今出大輔・天久親紀他 2 名 多領域連携における地域支援体制のための地域診断マニュアルの作成 厚生労働科学研究費補助金障害者政策研究事業 地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における

支援体制整備に向けた研究 (研究代表者: 本田秀夫) 2021